

2030ケーブルビジョン

概要

2021年6月

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

R3 20210630

1. 『2030ケーブルビジョン』策定にあたって

◆ 我が国が直面している状況

- 少子高齢化の更なる進展 ● 人口減少の進展 ● ファミリー層が縮小、単独世帯が主に
- グローバル経済における日本の地位低下 ● コロナ禍で疲弊し、持続的な成長を求める地域経済
- 移動しない、接触しない「新たな日常」⇒ Society 5.0、DX関連の取組が加速
 - ✓ 新しい働き方の普及、ライフスタイルも変化（仕事からプライベートへ、都市から地方へ）
- 政府においてもデジタル化に向けた取組が本格化

◆ ケーブルテレビ事業者として、地域とともに成長し、更なる発展を遂げるには

- ✓ 持続可能な地域づくり（SDGsへの取り組み）へ貢献していくことが重要
- ✓ 地域社会や住民のために、地域で役に立ち続ける企業であるためにどうすべきか
- ✓ 「移動しなくていい社会」は大きなチャンス

「2030年のケーブルテレビの在り方」の検討を開始

2030年の社会像の調査 (2020年10～12月)

- ✓ 連盟の主要事業者とともに、外部有識者ヒアリング等を行いながら、「2030年の社会像」を調査。
- ✓ 「2030検討会」立ち上げ

「2030検討会」を中心とした活動 (2021年1～6月)

- ✓ 年明けより、検討会（10回）、主要委員会と11支部意見広聴
- ✓ 次世代を担うサブWGからの提言
- ✓ 大学生ヒアリング（青学、信州大学）

2. 2030年の社会

- ✓ 外部有識者ヒアリングを中心とした『2030年の社会像の調査』では、「社会」「生活」「テクノロジー」3つの切り口から、18のキーワードに注目。
- ✓ 社会や生活の急激な変化に、DXを活用してしなやかに対応していく必要性。

社会が変わる

急速な人口減少

未知の高齢化

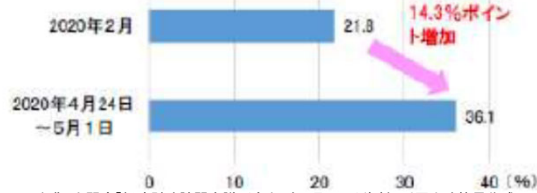
長引く低成長

低炭素社会

暮らしの変化

東京一極集中緩和
⇒地域や地方への意識変化

20代のU・Iターンや地方での転職希望増



- ✓ 地方との関わり方の多様化
移住～観光～他地域での消費など
- ✓ 身近な生活圈・地域への
応援志向の高まり

生活が変わる

新たな生活様式

医療のデジタル化

教育のデジタル化

未来シナリオは前倒し

コロナ後の生活者傾向

行政手続きのデジタル化



テクノロジーが変わる

「Society 5.0」が進展

AI、ロボティクス

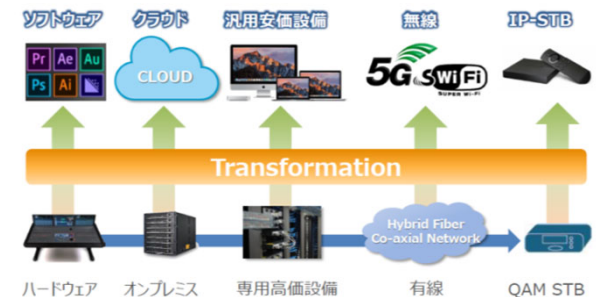
Beyond 5G、6G

高齢者向けイノベーション

IOWN

DX

サービスを、安価に、迅速に、安全に、持続的に、多様な形態で、柔軟に、機動性を持って実現させる技術



2030ケーブルビジョン検討会 「ケーブルTVの技術展望」日本ケーブルラボ松本様資料より

3. 2030年に向けた事業環境の見通し

個社事情と照らし合わせ、事業環境を直視
～何もしなければ待ち受けるシナリオ～

ケーブルテレビ事業の収益力 = ①顧客基盤 × ②地域経済 × ③競争力

①顧客基盤

見通し

- ・首都圏郊外含め世帯減少、高齢化等、「自然減」が既に進行
- ・ファミリー層が縮小、より通信支出が低い単独世帯が主に
- ・コロナ禍後の消費水準は不透明

シナリオ

- ・主たる顧客層が縮小し、提供サービスと世帯構成にギャップが生じる
- ・料金感度が高い若年層へ訴求・開拓できず、顧客基盤維持が困難に
- ・総じて、嗜好サービスであるケーブルテレビは要らなくなる

②地域経済

見通し

- ・地域の生き残りをかけた競争が進行中
- ・インフラや労働力（生産性）など地域の経済力が低下
- ・地域資源を活かしきれない地域は持続可能性が課題

シナリオ

- ・地域におけるインフラ競争時代が終焉、全国事業者が支える構図に
- ・地域経済・社会の構成要素の変化へ追従できず、事業改革が進まない
- ・地域の存続・発展に貢献できず、ケーブルが淘汰される蓋然性が高まる

③競争力

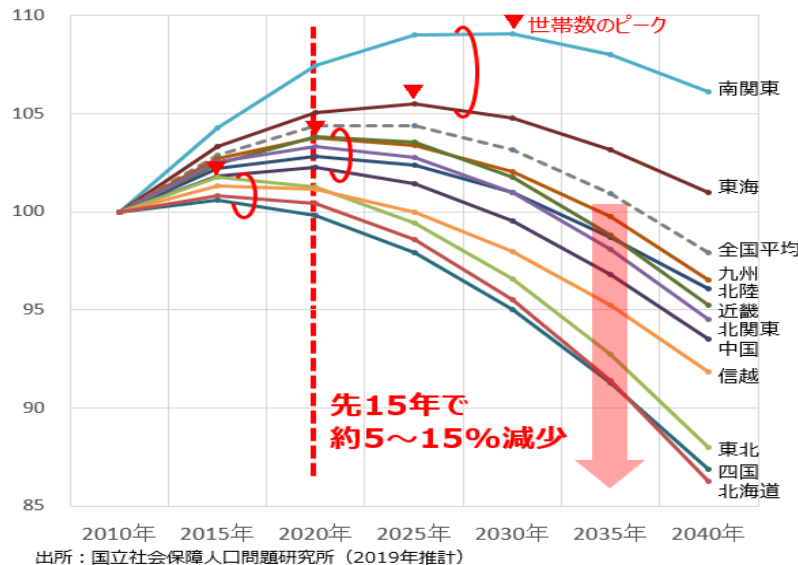
見通し

- ・通信市場の規模・収益は固定系から移動体系へシフト
- ・NTTグループ統合、全国MNOの料金低廉化など、競争が激化
- ・放送は、国内外で地上波の高度化とIP化の動きで二極化が進行

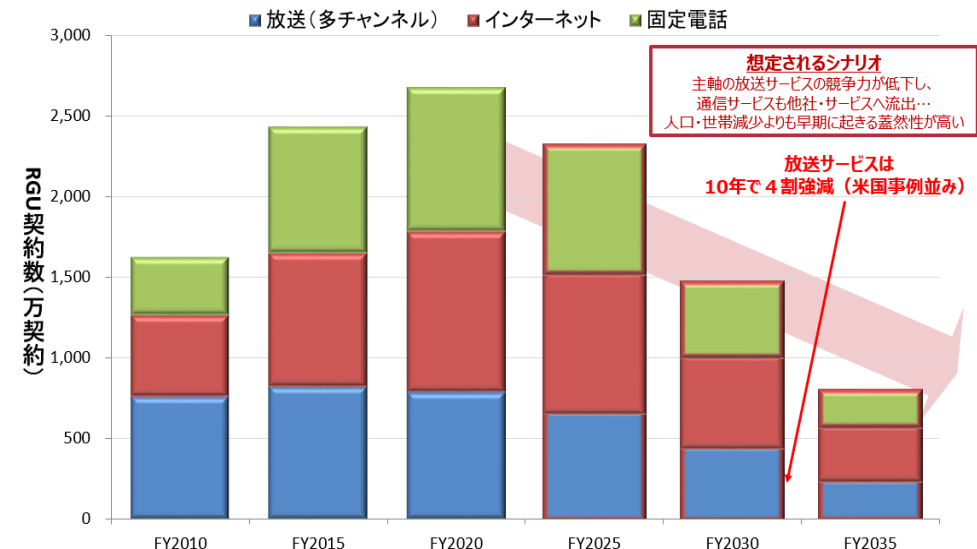
シナリオ

- ・電話・放送は、携帯・OTT（他メディア）に代替され「コードカット」が進む
- ・放送を失い、携帯を軸としたバンドルに差別化できず、解約が加速
- ・将来的には再送信基盤としての優位性が失われる蓋然性が高まる

地域別の世帯減少（連盟11支部別にみると・・・）



業界・全国のサービス契約数は大幅に縮小していく



4. 2030年のケーブルテレビが担うべきミッションと目指すべき姿

ミッション

『地域DXで地域を豊かに、人々を笑顔に』

- ◇2030年においても、ケーブルテレビ業界の志は変わらない!! すべては、**地域社会のために、お客様のために!!**
- ◇お客様との関係性は、企業とお客様ではなく、**地域コミュニティを共創する《メンバーシップ》の姿勢で!!**
- ◇**持続可能な地域づくり《SDGsへの取り組み》**が、ますます重要!!
- ◇地域課題解決のキープレイヤーとして、地域活性・地方創生など、**地域の共通価値を創造《CSV》**していく!!

目指すべき姿～6つのアプローチ

放送が変わる	地域における情報メディア・プラットフォームになる
コンテンツが変わる	地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサーになる
ネットワークが変わる	安全で信頼性の高い地域No.1ネットワークを構築する
ワイヤレスが変わる	地域MNOとして第5のモバイルキャリアを目指す
IDで変わる	ケーブルIDで地域経済圏を構築する
サービス・ビジネスが変わる	地域DXの担い手になる

5. 2030年に向けたアクションプラン

強みを最大限に発揮!!

- ✓ 私たちのサービスや事業は、地域づくり《SDGsへの取り組み》そのものである
- ✓ 顔が見え、足回りが利く事業者として、高齢者はじめ、デジタル難民のサポートができる
- ✓ コンテンツとインフラの両方をもつ事業者として、地域ニーズに総合力で臨むことができる
- ✓ 地域の特性や課題に応じて、多様性のある、しなやかな事業の組み立てができる
- ✓ 「頼りになるのは地元のケーブル!!」を徹すれば、地域のハブ機能を果たすことができる
- ✓ お客様のニーズに総合力で真摯に向き合えば、ブルーオーシャンの世界を作ることにもできる
- ✓ 個社対応が難しいテーマには、オールケーブルの業界連携をもって臨むことができる

こんな姿勢で臨みたい!!

- ✓ 各社の事業環境に照らしながら、『それぞれの会社のビジョン』に仕上げていくことが大事!!
- ✓ 10年の計で考えれば、足元の事業基盤強化から、新しいチャレンジまで、考える選択肢はたくさんある!!
- ✓ 「やれるものからやってみよう!!」「どうやったら実現できるか!!」の思考で臨む!!
- ✓ 2030年の社会を念頭におきながら、今から、具体的な行動を着実に実行していくことが必要!!
- ✓ 「変われるものが生き残る」の覚悟にて、さらには「変化を創造する業界へ!!」

「目指すべき姿」の実現に向けて、6テーマでアクションプランを策定

放送

コンテンツ

ネットワーク

ワイヤレス

ID

サービス・ビジネス

『新たな事業領域を創出し、顧客創造を図る』

①放送が変わる

地域における情報メディア・プラットフォームになる

- ✓ **コミチャンをキーコンテンツ**として再認識し、放送波以外のあらゆる媒体でエリア内外に配信
- ✓ 放送ビジネスの変化にしなやかに対応、**民放ローカル局とも連携した地域共通映像配信PF**などの実現
- ✓ **多様なデバイス**による放送視聴環境への対応を推進

②コンテンツが変わる

地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサーになる

- ✓ NHK・民放・コミュニティFMとのパートナーシップの加速化
- ✓ 制作 & 発信力を磨き、企業・大学・行政等との連携を進め、
あらゆる地域情報発信のシーンを担う体制を構築
- ✓ 地域コンテンツのターゲットを、**広域・全国・グローバル**に展開し、
ビジネス規模を数倍に拡大
- ✓ ケーブル4Kの全国PF化、
業界コンテンツ流通システム（AJC-CMS）のリージョナル化を実現・展開
- ✓ コミュニティアプリと連携した地域ビジネスの創出・全国展開

③ネットワークが変わる

安全で信頼性の高い地域No.1ネットワークを構築する

- ✓ アクセス網の**オール光化**を実現
- ✓ 地域IX・リージョナルクラウドによる**トラヒックの地産地消**の実現
- ✓ ワイヤレスも視野にいた**総合的なソリューションネットワーク**の展開
- ✓ 他の通信事業者との**連携と公正な競争環境の確保**に向けた体制の確立
- ✓ 2030年を想定した**サイバーセキュリティ**の総合的対策の推進

④ワイヤレスが変わる

地域MNOとして第5のモバイルキャリアを目指す

- ✓ 2023年までを「**地域BWAの集中整備期間**」、「**ローカル5Gの集中整備期間**」と定め、全国展開を積極的に推進
- ✓ ローカル5Gの新たなコアNW、及びローカル5Gと地域BWAの一体的な利用が可能となるシステムを検討
- ✓ 地域におけるIoT利用のニーズを掘り起こし、地方自治体や中小企業等向けの**無線を活用したBtoB/G事業モデル**を構築
- ✓ 第5のモバイルキャリアとして1千万回線実現するため、ローカル5Gと地域BWA、LPWAなどを組み合わせた**多層的な無線インフラ**を構築し、地域のニーズに即した**様々な無線サービスを提供**

⑤IDで変わる

ケーブルIDで地域経済圏を構築する

- ✓ 2022年頃までに「**次期ケーブルIDプラットフォーム**」のシステム計画を策定
- ✓ 2025年までにケーブルID 500万発行、**2030年までに1,000万発行**を目指す
- ✓ 2023年までに様々な形で顧客接点をデータ化し、
全国事業者との差別化を図れる**データ活用モデル**を構築
- ✓ 地域のサービスや商品を住民のニーズに応じてレコメンド・提供することで、
ケーブルIDによる地域経済圏の構築を目指す

①～⑤を掛け合わせ

⑥サービス・ビジネスが変わる

地域DXの担い手になる

- ✓ デジタル弱者サポート、デジタルマーケティング推進による**地域顧客対応NO1**の実現
- ✓ 「コンテンツ×インフラの総合力」による、**業界内外への様々な連携サービス**の実現
- ✓ **新たな事業領域を創出し顧客創造**、2030年の業界全体の
ビジネス規模 3 割の実現
- ✓ **CATV×スマートシティ**の実現・展開
- ✓ **CATV×SDGs**の実現、SDGs=Good Businessへ

7. 2030ケーブルビジョンの実現に向けて業界が変わる！（サマリー）

業界共通のアクションプラン

従来のビジネスに固執せず、業界をあげた取り組みとする

- ✓ 『2030ケーブルビジョン』を啓蒙し、**真の業界連携の実現による共通目標を達成**
- ✓ **ケーブルテレビ関連業界団体間の一層の連携**
- ✓ 働き方改革や労働環境整備の取り組みを、コロナ禍における期間限定の対応とせず、制度や運用の常態化を進め、業界をあげて、「**健康経営、さらには社員の健康と幸せ（Well being）**」を実現
- ✓ **デジタル領域を事業推進する人材の育成・確保・活用**に向けて、業界の支援策を検討し、順次、実行
 - ☞ 例）DX人材の育成 ～「地域DX塾」の開講、「地域DX関連ウェビナー」など
 - ☞ 例）学生への訴求強化 ～「事業の広範囲なサービス実態や先進的取り組み、地域社会と向き合う姿勢や思い」
- ✓ 進捗状況の**定期的なフォローアップ**、課題に応じた**推進体制の構築・展開**、適切な**ビジョンの改定**
- ✓ 各分野において、**競争領域と協業領域のコアをはっきりさせ、パートナーシップを推進**
- ✓ 次期ケーブルIDプラットフォーム、AJC-CMSなどの「**業界連携の取組**」を強化、発展させる。
- ✓ 「**大手事業者**が実証を重ねた、**新たなサービスモデルの業界内展開**」
「**中小規模事業者**による実践から生まれた、**スモールビジネスの業界内横展開によるスケール化**」
両面から業界連携を進めていく。

9. 2030年への飛翔

～2010年

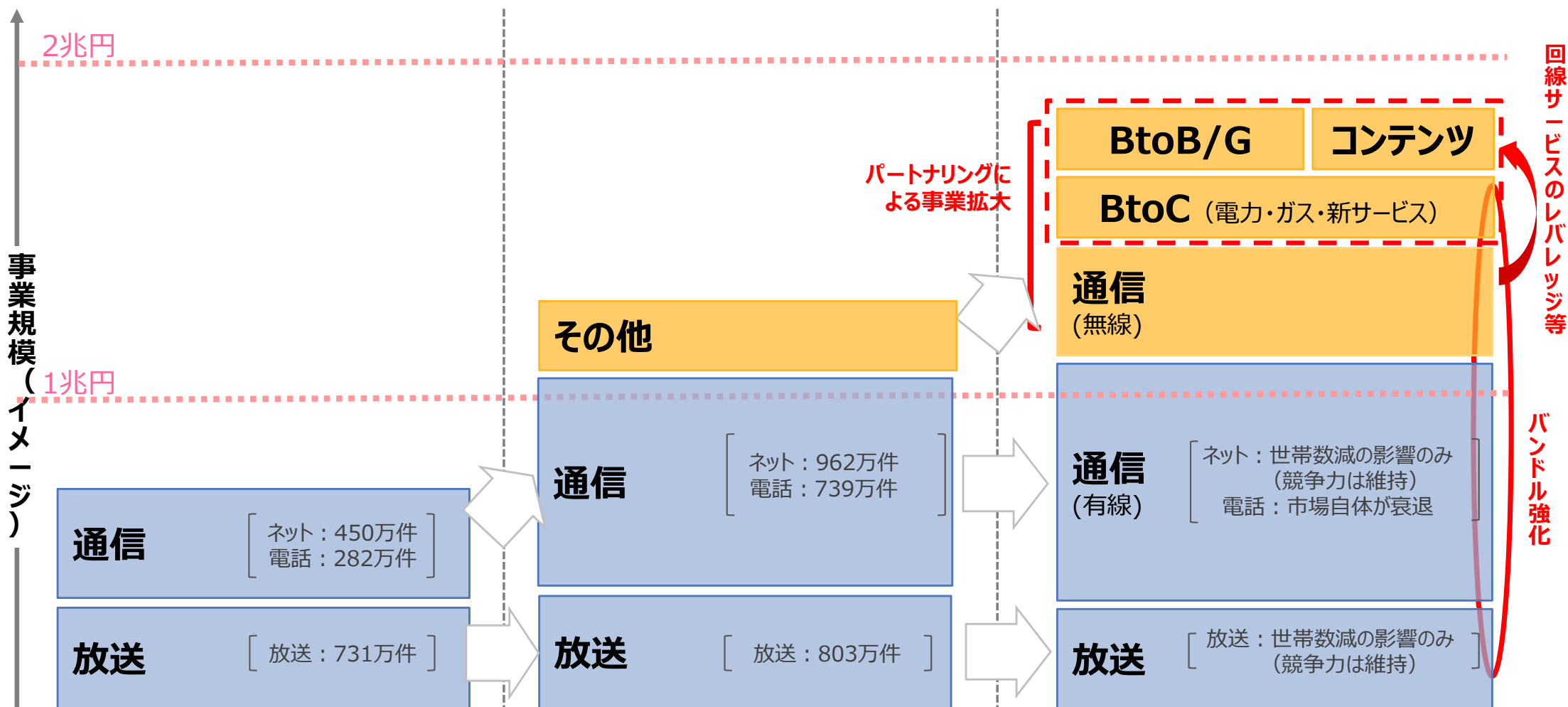
- ✓ 放送で獲得した顧客基盤に対し、ネット、固定電話をバンドルし事業を拡大した時代

現在(2020年)

- ✓ 2030年を見据え成長のトリガーである通信（無線）に投資を開始する時代

将来(2030年)

- ✓ 既存事業とのシナジーに加え、事業領域の拡大と顧客創造を実現する時代



『地域DXで地域を豊かに、人々を笑顔に』

- ① 放送・通信（有線）の**既存サービス**は、商品の強化・改善、バンドル強化等で成長を維持する。
- ② BtoB/Gへの注力、広い範囲のコンテンツ事業化、BtoC事業の拡大（電力・ガス・新サービス）により、**新規事業領域の拡大と顧客創造**で多収益化を図る。

